

早稲田大学 法学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	<p>例年のことであるが、暗記力よりも思考力を問う問題形式である。</p> <p>英作文の解答はいくらでもあるので、難しいと思うかチャンス問題と思うかといったところで自らの勉強の方向性が正しかったかどうか自覚することになるでしょう。</p> <p>今年は非常にこなれた良問であった。</p>

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	段落要約選択 内容一致 発音	「ジョン・ロウの生涯と金融政策」 文の長さにひるまず、段落のポイントとなる語句を探すこと。読みながら、年代などには後から見つけやすいように印をつけておくのが、この手の文のテクニック。文と設問は解き易い。	やや易
II	段落内容一致	「イギリスの携帯電話マナー」 第I問同様、段落毎の設問なので、長文というイメージでは無く解ける。	易
III	空所補充	副詞の選択で全て go にまつわる熟語。毎年、基本動詞1つについて集中的に出題する傾向がみられる。	やや易
IV	文法	毎年、時制・仮定法・分詞・不定詞などの要素がはいるが、その中でも時制に関わる問題が多いので、注目すると良い。	やや難
V	会話文空所補充	3問あり、内2題が仮定法にまつわる問題。ただ、if を用いなくても、いろいろな答えができるので、自分の得意なパターンをいくつ持っているかにより、得点の可能性は上がる。	やや易
VI	英作文	“裁判員”制に対する自分の見解を書く問題。見解とその理由を背伸びせず自信のある表現で書けばよい。	やや易

〔総合コメント〕

上の難易度を見ると、決して難しい問題は無いのだが、長文の長さ、解答箇所の多さが時間配分を狂わせて焦らせてしまうことが多いだろう。できる問題から埋めていくと良いのは当然だが、文法は毎年パターンが似ているので、そこで時間を節約したい。長文も出題を確認してポイントに印をつけて読むなどのテクニックを使うと、次々と解答を見出せるような問題である。

受験勉強が“暗記物”に終始した人には当たりハズレが大きく、また、長文を“前から区切って読む”と思っている人には時間が足りないと感じるでしょう。